

## JAM愛知 第19回定期総会 全ての議案を確認し 介護問題の映画を鑑賞

愛知シニアクラブは10月23日「ワークライフプラザれあろ」で第19回定期総会を開催。総会には59名が出席、冒頭中島善之副会長の開会挨拶、議長に河辺昌彦幹事を選出した。

主催者を代表し吉田博会長は「熱帯低気圧の停滞による豪雨、さらに台風が各地に大きな被害をもたらした。地球温暖化の影響が激化しているためと気象学関係者も言及している。成長のみならず気候バランスや生物の多様性の保持に重要な課題だ。人間の生活との因果関係を丹念に読み解き、包括的な解決を目指すことが必要ではないかと」訴えた。

来賓のJAMシニアクラブ木村正次副会長は参議院議員選挙では力強い支援を受けながら結果を出せなかったことに陳謝を述べるとともに、2020年度定期総会で確認した、会員拡大と地域活動強化の方針を紹介、ともに活動を推進しようと言った。その後JAM東海佐藤元紀副委員長、連合愛知シルバー倶楽部東正元会長、岐阜シニア北村務会長から連帯と激励の挨拶をいただいた。

議案審議では4議案を満場一致で可決。特に、愛知シニアクラブ結成時からのスローガン「人間関係の繋がりを大切に」を継続し①会員拡大と組織の充実②運動の原点である「困ったとき」の助け合いを強め、JAM共済継続加入の促進」を現・退連携して推進する。また会長以下13名の新役員を承認。三役に会長吉田博、副会長中島善之、榎本弘明、事務局長熊谷悠之、会計山口道子を選出した。

総会終了後、認知症を介護する家庭が増えてきている社会情勢下にあること、愛知県豊明市在住の小菅もと子の介護記録著「忘れても、しあわせ」が「折り梅」として映画化され高齢者問題を考えようこの映画を上映し鑑賞を通して「若い」と真正面から向き合うことで、見えてくる家族の絆をつくる大切さを感じた。終了後、ふれあい交流を開催した。

